

# *Dr. Server* Neo

操作マニュアル



ジャストウェア株式会社

## はじめに

パッケージの内容	1
動作環境	1
セットアップ	2
ハード ID キーに関する説明	2

## Dr.サーバー

「Dr.サーバー」ソフトとは	8
Dr.サーバーの機能	9
<b>各機能の利用にあたって</b>	<b>11</b>
通信の前に	11
初期設定	11
外部データポーリング	12
外部データポーリング設定	13
テキスト区切り設定	13
まとめ：各機能と設定の関係	13
<b>メニュー・項目に関する説明</b>	<b>14</b>

# はじめに

この度は、アプリケーションソフト「Dr.サーバー」をお買い上げ頂きありがとうございました。「Dr.サーバー」は、Windows XP、Vista、7、8、10の上で稼動する、GPシリーズネットワークプリンタおよびAP-700/AP-800向け、ラベル発行データ管理システムです。本書では、「Dr.サーバー」の導入や各プログラムの使い方について説明しています。「Dr.サーバー」の機能、操作、設定方法をご理解いただくために、ご使用前には必ず本書をよくお読みください。本書が皆様のお役に立つことを願っております。

ご注意：

1. このソフトウェアに重大な<sup>かし</sup>瑕疵が発見された場合は、無償で交換します。
2. このソフトウェア及びマニュアルを運用した結果の影響については、一切責任を負いかねますので、ご了承下さい。
3. このソフトウェアの仕様、及びマニュアルに記載されている事柄は、将来予告なしに変更することがあります。
4. このソフトウェアを利用するには、IDキーが必要です。IDキーを紛失した場合、販売店に紛失届を出せば、IDキーの再発行が可能です。但し、再発行は有料になります。IDキーについてはP2の「IDキーに関する説明」をご覧ください。

## パッケージの内容

「Dr.サーバー」のパッケージの内容は以下の通りですので、ご確認下さい。

- ・「Dr.サーバー」CD-ROM 1枚とUSBタイプIDキー 1個  
(但し、USBタイプのIDキーが使用できないPCの場合、無償でLPTタイプに交換します。)
- ・操作マニュアル 1冊
- ・ユーザー登録カード 1枚

## 動作環境

- ・対応機種：DOS/V PC (デスクトップパソコンとノートパソコン)
- ・CPU：Pentium 300MHz以上
- ・OS：WindowsXP、Vista、7、8、10  
(AP-700ではXP環境が必要となります。)
- ・メモリ：128MB以上

## はじめに

- ・ディスプレイ：Windows 対応のカラーディスプレイ（解像度 800×600 以上 推奨）
- ・インターフェース：LAN インターフェース 1 個以上、USB インターフェース又は LPT（プリンタポート）1 個以上
- ・ハードディスク：空き容量 40 MB 以上
- ・マウス：Windows 対応マウス
- ・日本語 FEP：Windows 対応の日本語変換システム
- ・ラベルプリンタ：(株)寺岡精工製ネットワークラベルプリンタ GP-4100、GP-460R、GP-460R、GP-2000、GP-6000、AP-700、AP-800  
プリンタバージョンは 3 バージョン以前のもののみ対応

## セットアップ (Windows XP/Vista/7/8)

1. 必ず「Dr.サーバー」を PC にインストールしてから USB キーを PC に差し込んでください。
2. お使いのパソコンで Windows XP/Vista/7/8/10 を起動します。
3. 「Dr.サーバー」のセットアップ CD-ROM を CD-ROM ドライブ（例えば D）にセットします。
4. 「スタート」ボタンをクリックし、「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
5. 名前に、「d:¥setup」と入力し、「OK」ボタンをクリックします。
6. ID キーの上書いてある「ユーザーID」を入力し、「次へ」ボタンをクリックします。
7. 「インストール先のディレクトリ名」を入力します。デフォルトは「c:¥drserver」になります。
7. 「次へ」ボタンをクリックすると、インストールが始まります。
8. 「Dr.サーバー」が既にインストールされている場合、「古い環境のパラメータを引き継ぎますか？」という確認メッセージが表示されます。以前使っている環境をそのまま使いたい場合に「はい」を選んで、そうでなければ、「いいえ」を選んでください。
9. インストールが終了したら、「完了」ボタンをクリックします。「スタート」「プログラム」の中に「Dr.サーバー」のメニューが登録され、その中に「Dr.サーバー」、「フォーマット作成」、「データベース管理」、「履歴データ管理」、「外部フォント作成」、「Dr.データファイル変換」と「アンインストール」の 7 つのメニューが登録されます。

## ハード ID キーに関する説明

ID キーとは、「Dr.サーバー」をご利用頂く為のライセンスです。ID キーがなければソフトを利用することはできません。

ハード ID キーは USB タイプと LPT タイプの二種類あります。USB タイプはパソコンの USB ポートに差し込んで使い、LPT タイプはパソコンのプリンタポートに差し込んで使います。出荷時に USB タイプの ID キーを同梱しています。

## はじめに



USB ポートに接続 青色(32bit 環境まで対応) / USB ポートに接続 緑色(64bit 環境対応)

### ID キードライバのインストール

ドライバは、「Dr.サーバー」をインストールする際に自動的にインストールされるので、必ず「Dr.サーバー」をインストールした後に ID キーをポートへ差し込んで下さい。

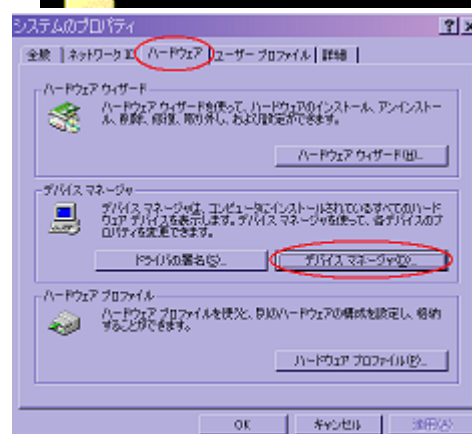
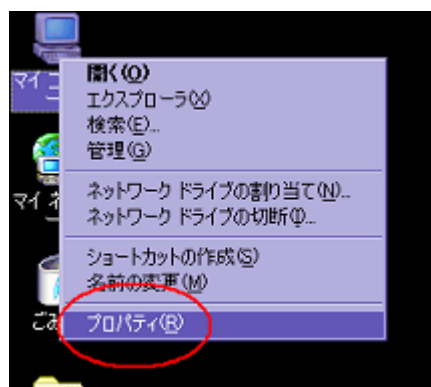
### ID キードライバの確認手順

#### 1. Windows XP の場合

「マイコンピュータ」を右クリックして「プロパティ」をクリックします。

システムのプロパティにある「ハードウェア」をクリックし、「デバイスマネージャ」をクリックします。

デバイスマネージャにある「USB (Universal Serial Bus)コントローラ」をクリックし、SenseLock USB Lock があり、更に何のマークも付いていなければ、キードライバが正常にインストールされていることとなります。



## はじめに

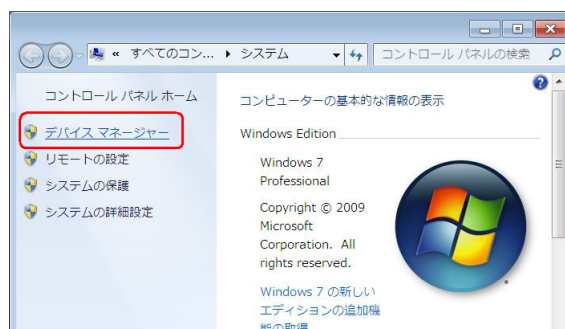
### ID キードライバの確認手順

#### 1 . Windows Vista/ 7/ 8/10 の場合 ( 青色 USB キー-32bit 環境 )

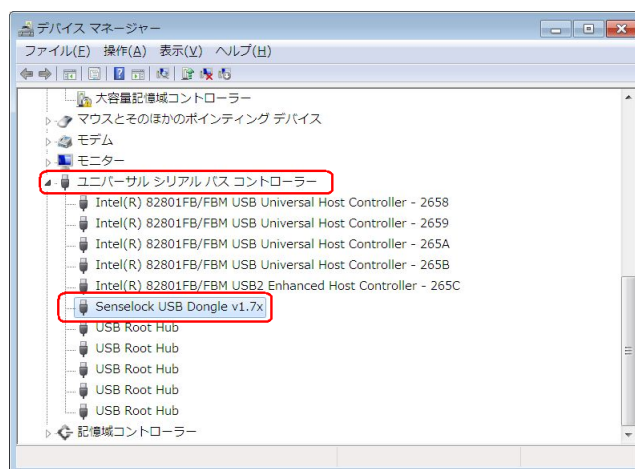
「マイコンピュータ」を右クリックして  
「プロパティ」をクリックします。



システムのプロパティにある「デバイス  
マネージャ」をクリックします。



デバイスマネージャにある「ユニバーサル  
シリアル バス コントローラ」をクリ  
ックし SenseLock USB Dongle があり、  
更に何のマークも付いていなければ、キ  
ードライバが正常にインストールされて  
いることになります。



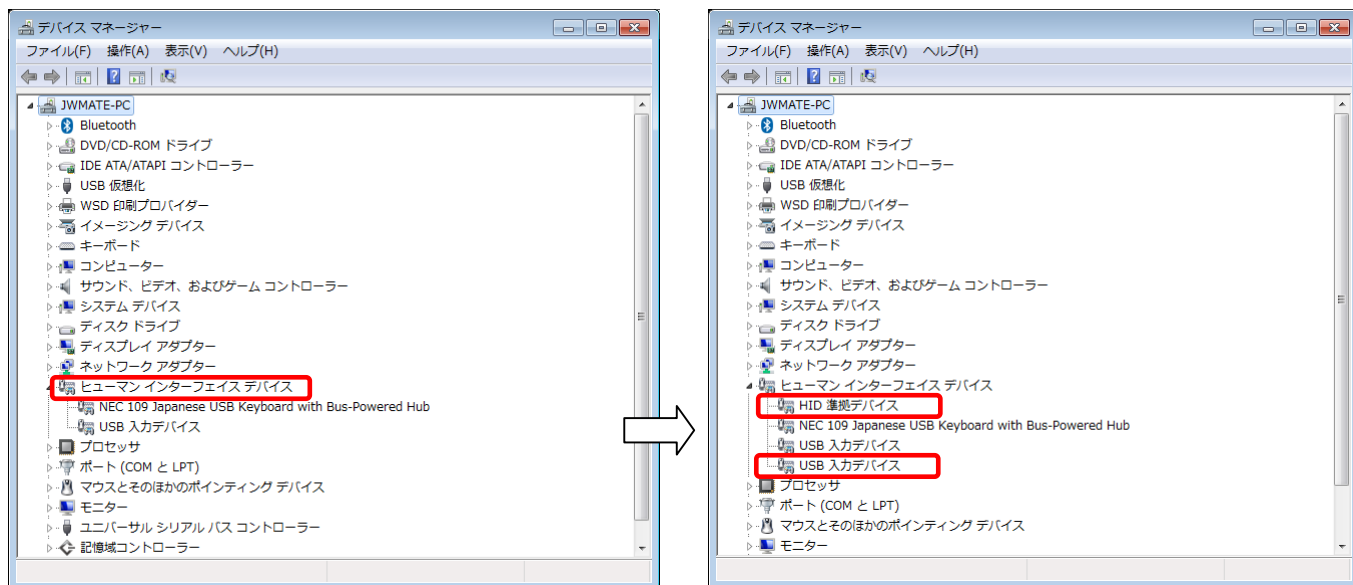
#### 2 . Windows Vista/ 7/ 8/10 の場合 ( 緑色 USB キー-32bit/64bit 環境 )

緑色の USB キー ( 64bit 環境対応 ) では、ヒューマンインターフェイスデバイスとして認識されます。Windows 標準のドライバにて認識されます。

上記 「1 . Windows Vista/ 7/ 8/10 の場合 ( 青色 USB キー-32bit 環境 )」の 、 の手順で「デバイスマネージャ」を開き、「ヒューマン インターフェイス デバイス」をクリックします。USB キーを USB ポートに挿入している状態では、「HID 準拠デバイス」と「USB 入力デバイス」が表示されます。

USB キーボードやマウスなどが接続されている場合、複数表示されている場合があります。USB キーを抜いた状態、挿入した状態でデバイスマネージャ内の表示が変われば、認識されている状態です。

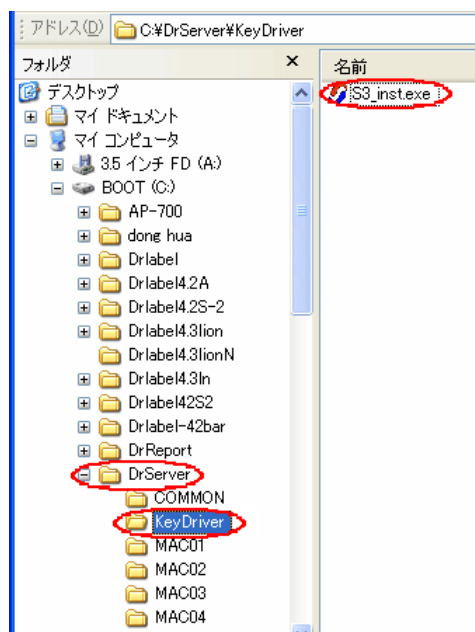
## はじめに



ヒューマンインターフェイスデバイスを開き、USB キーを挿入して「HID 準拠デバイス」と「USB 入力デバイス」が新たに表示されると、認識されている状態です。

### ID キードライバの手动インストール

ID キーを「Dr.サーバー」のインストールする前にポートに差し込むと、ID キードライバがうまくインストールできない場合があります。また、パソコン機種や OS タイプによって自動インストールがうまく行かない場合もあります。そのような場合、ID キーを一旦ポートから抜いてから、手で ID キードライバをインストールする必要があります。手动インストールの手順は次の通りです。



「エクスプローラ」を起動し、「Dr.サーバー」がインストールされているフォルダーを開きます。

そのフォルダー内にある「KeyDriver」をクリックして、そのフォルダー内にあるプログラム「S3\_inst.exe」をダブルクリックします。そうすると、マウスの形が砂時計になり、何秒か経つとまた元の形に戻ります。それでインストールが完了します。

手动インストールが完了後に、再度 ID キーをポートに差し込んでドライバがインストールされたかどうかを御確認下さい。



## はじめに

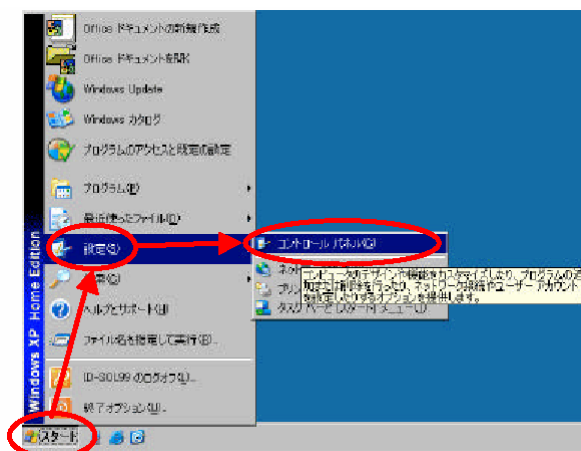
### ハード ID キーの使い方に関する注意事項

- 1 .ノートパソコンがスタンバイ / サスペンドモードに入ると、ID キーの電源も切られてしまい、通常モードに戻っても ID キーが正常に動作しない場合があります。この問題を回避する方法が二つあります。一つは、ノートパソコンの電源設定にスタンバイ / サスペンドモードを無効に設定する方法です。もう一つは、スタンバイ / サスペンドモードから通常モードに戻った後に、ID キーを一旦抜いてから再度差し込む方法です。
- 2 .「Dr.サーバー」を使う時は、必ず ID キーをパソコンのポートに差し込んでから、「Dr.サーバー」を起動して下さい。もし ID キーを差し込まない状態で「Dr.サーバー」を使用すると、10 日間後にラベル発行ができなくなりますのでご注意ください。ID キーを付けずにラベル発行ができる日数は累計 10 日間です。
- 3 . ID キーの品質不良、寿命切れ又は自然災害によって壊れた場合、壊れた ID キーを弊社にご返送いただければ無償で交換します。それ以外の原因で壊れた場合、壊れた ID キーを弊社にご返送いただければ、新しい ID キーを再発行します。但しこの場合は実費をお支払いいただくこととなりますので、ご了承下さい。尚、詳細は販売店へお問合せ下さい。
- 4 . ID キーは「Dr.サーバー」の使用権利なので、紛失しないように大事に管理してください。万が一紛失した場合は、紛失届を記入し使用部署の印鑑を押して販売店に提出し、再発行の申請を行って下さい。その場合、ライセンスの再発行となり、有償となりますのでご了承下さい。尚、詳細は販売店へお問合せ下さい。

## WINDOWS XP SP2 ファイアウォール設定の注意点

接続プリンタに 4000Ze または 460RSe を使用する場合で、通信エラーが発生し、PING コマンドが正常な場合、次の確認をして下さい。

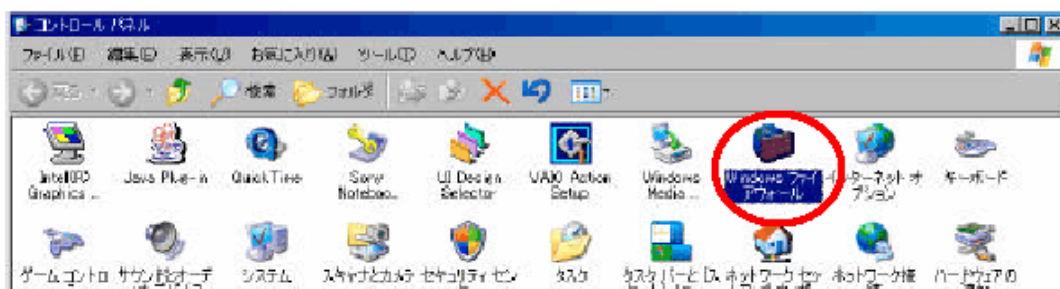
「スタート」「設定」「コントロールパネル」をクリックします。



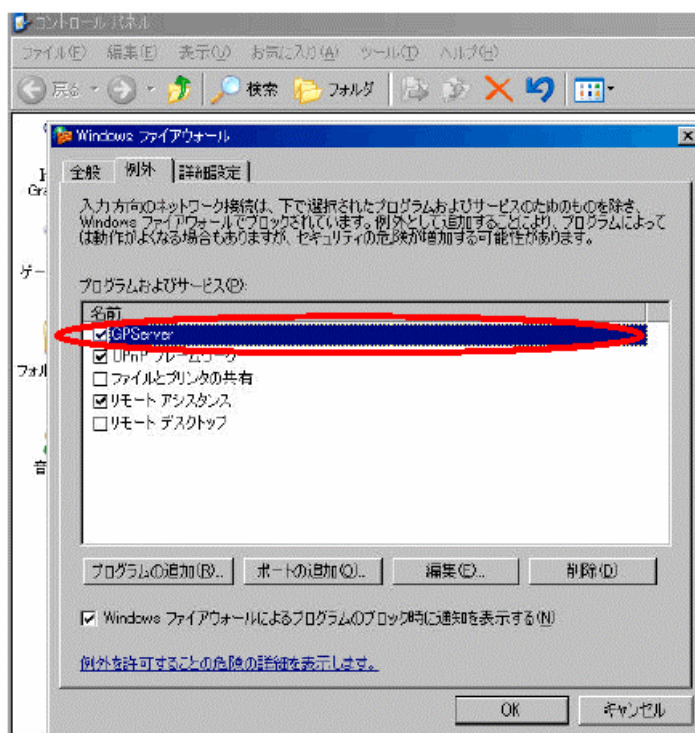


## はじめに

WINDOWSファイアウォールをダブルクリックします。



ファイアウォール設定の一覧から例外タブをクリックし、 Dr Serverに必ずチェックを入れます。



チェックが外れていますと、通信できなくなります。必ずご確認ください。

## Dr. Server

Dr.サーバーは、ラベルを発行するためのあらゆる情報をネットワークプリンタに提供します。

ここでは Dr.サーバーの機能について説明します。

## Dr.サーバーソフトと Dr.サーバー

### 「Dr.サーバー」ソフトとは

近來のネットワーク拡大に伴い、LANの普及は目覚ましいものがある中、プリンタの接続形態も様々なものが求められるようになりました。現場の環境やパソコンの操作性の問題から、「パソコンを何台も設置できない」「簡単な操作で作業したい」等の利用者側のニーズが生じています。このような背景を踏まえてLANと直接繋ぐことができるプリンタが開発されました。この際、例えばラベル発行そのものをプリンタ主導で行うことはできますが、データ作成や管理における効率面で若干問題がありました。「Dr.サーバー」はこの問題を解決し、LANに繋がる複数のプリンタのリソースを一括管理する画期的なソフトウェアです。「Dr.サーバー」の特徴は次の通りです。

プリンタは1台のパソコンにつき最大15台までLANで接続することが可能です。

各プリンタはLANの接続により他のプリンタの通信状況に関係なく同時作業を行います。

パソコンは接続したプリンタが要求するデータを一括管理します。

パソコンと各プリンタはアップロードやダウンロードによりデータを共有します。

パソコンはラベル発行を行わず、プリンタがサーバーへ直接アクセスしてデータを呼出しラベルを印刷します。

パソコンにおいてだけでなく、各プリンタ自らがデータを作成し、修正することができます。

#### その他の詳細機能

- フォーマット作成機能、データベースとバッチデータ管理機能
- フォーマットとデータベースのダウンロード・アップロード機能
- バッチデータのダウンロードと実績データのアップロード機能
- カード番号管理機能、機種別データ保存機能、マルチプリンタのデータ共有機能
- 交信ログの記録と差分ファイルのみをダウンロードする機能
- CSVデータの自動取り込み機能、実績データの追加取り込み機能
- データベースのデータをリアルタイムで呼び出す機能、実績データをリアルタイムでデータベースに書き込む機能

## Dr.サーバーの機能

Dr.サーバーは、「Dr.サーバー」ソフトの中でデータ通信を担当し、データ通信の開始・停止を統括します。Dr.サーバーはパソコンと各プリンタとの間で「フォーマット」、「データベース」、「図形データ」、「履歴データ」といった4つのデータを送受信します。各データは独自のファイル形式を持ち、またそれぞれのファイルの管理は各ツールにて行います。尚、各ファイル名は全角の漢字10文字まで入力することができます。各データの管理ツールとファイル形式は具体的に次の通りです。

- フォーマット = フォーマット作成ツール, 「f m t」
- データベース = データベース管理ツール, 「d b s」
- 図形データ = Windowsのアクセサリのペイントツール, 「b m p」
- 履歴データ = データベース管理ツール, 「h s d」

フォーマット、データベース、履歴データの作成・管理の方法は『AP-700 Console Soft 操作マニュアル』を参照して下さい。

各プリンタを統括するパソコンは、Dr.サーバーが各プリンタからの要求に応じて上記データの送受信を行うことにより、接続しているプリンタのデータ管理を行うことができます。さらに「Dr.サーバー」のフォルダ構造の提供によって、機能的にデータ管理をすることができます（ P 1 0 「Dr.サーバー」のフォルダ構造とデータ管理について）。最大の特色は、Dr.サーバーが、これらデータの通信を各プリンタの通信状況に関係なく、同時期に提供することができるという点です。つまり各プリンタは他のプリンタの通信状況を気にすることなくデータの通信を行うことが可能です。また、Dr.サーバーは外部データポーリング機能を備えており、外部データを内部データベースへ自動変換することができます。詳細は P 1 2 「外部データポーリング」をご覧下さい。

## Dr.サーバーのフォルダ構造とデータ管理について

Dr.サーバーはパソコンへプリンタ 1 台につき 1 つのフォルダを作ります。パソコンのフォルダと各プリンタはそれぞれ 1 対 1 の関係で対応しているので、パソコンは一台で最大 15 台の複数プリンタの豊富なデータを一括して管理することができ、各プリンタは時間をかけて自身の要求するデータのフォルダを探さずに済みます。またデータを変更した場合の作業も極簡単な操作であり、パソコン側は上書き保存をし、プリンタ側は変更したデータをダウンロードするだけです。このとき、データのアップロードやダウンロードの際は、Dr.サーバーの「初期設定」で、各プリンタの IP アドレスはもちろんのこと、パソコン側のデータ保管先をあらかじめ設定しておく必要があります( P 1 1 初期設定)。尚、ルートフォルダの保管先と名前以外、各プリンタの名前、プリンタごとのフォルダ名は自動設定され、変更することはできません。尚、COMMON フォルダ(下図参照)とは全プリンタに共通するフォルダであり、各プリンタが共有するデータを入れることができる場所です。

**例** (プリンタを 2 台接続し、対応するルートフォルダ名を Dr.Server とする)

プリンタ 02 がデータをダウンロードしたい場合、このプリンタ 02 は、

- パソコンのフォルダ「MAC02」と対応しています。



プリンタにはこのフォルダの中のデータ一覧が表示され、この一覧より要求するデータをダウンロードすることになります。

## 各機能の利用にあたって

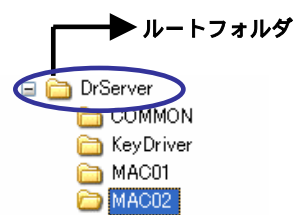
### 通信の前に

先の「Dr.サーバーの機能」で触れた通り、Dr.サーバーはデータ通信を統括しますので、パソコンと各プリンタとのデータ通信にあたってはまず、Dr.サーバーにおいて「サーバー開始」を選択する必要があります。逆に「サーバー停止」は、全プリンタのデータ通信の終了後に行います。また、各種設定メニューで設定するパラメータは通信データの動きを決めるものになるため、Dr.サーバーを開始する前に設定されなければなりません。特に初期設定については、この設定がないとデータ通信そのものを行うことができなくなりますので、忘れずに設定するようにして下さい。

### 初期設定

#### Dr.サーバーのルートフォルダの設定

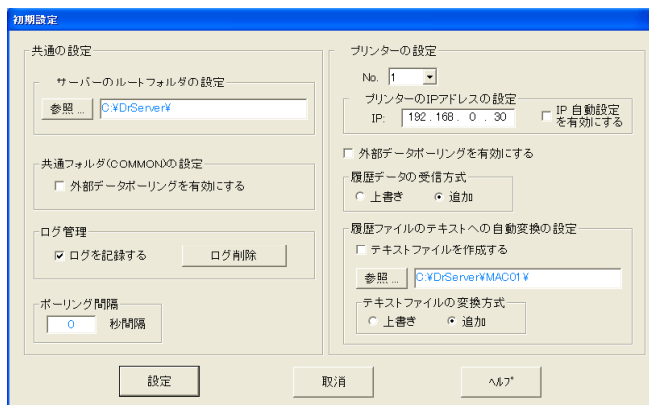
データファイルを入れる保管場所とルートフォルダ名を設定します。ルートフォルダとは各プリンタのデータを保管する大本のフォルダのことです。初期値では図の通りCドライブのDrServerとなっていますので、これを変更したい場合に再設定します。保管先は「参照」ボタンをクリックして一覧から選択することができます。



#### プリンターの設定

まず各プリンタのIPアドレスを確認の上入力します。No.はパソコンの各プリンタのフォルダと対応します(1=MAC01)。このとき通信をするか否かに関わらず、接続している全プリンタのアドレスを登録して下さい。全部のアドレスを登録しなくてもDr.サーバーを開始することはできますが、各プリンタからの通信を行いたい時に、その都度通信するプリンタのIPアドレスを設定する必要が生じるからです。

「外部データポーリングを有効にする」は、各プリンタと対応したフォルダ内に外部データがあるかどうかを定期的にチェックするか決めるもので、チェックを行う場合はオンに設定します。



## 共通フォルダ（COMMON）の設定

全プリンタに対応したCOMMONフォルダ内に外部データがあるかどうかを定期的にチェックするか決めるもので、チェックを行う場合はオンに設定します。

## 履歴データを受信する

履歴データの受信方法を選択します。既存の履歴データへ上書きしたい場合は「上書き」を、既存の履歴データを残して新しく追加したい場合は「追加」を選択します。

## ログ管理

ログを記録するかどうかを選択します。またログを削除する事も可能です。

## テキストデータ管理

履歴データを受信する時にテキストデータを同時に作成する事が可能です。履歴データがデータベース優先で作成されている時は、テキストデータは上書きのみで保存可能です。

## 外部データポーリング

外部データポーリングとは、ユーザーが外部データファイルを指定されたファイル形式にして指定した保管先に入ると、Dr.サーバーが自動的に「Dr.サーバー」のデータベース形式へ変換するシステムです。保管先は「初期設定」の「Dr.サーバーのルートフォルダの設定」で指定された場所にあるCOMMONフォルダまたは各プリンタに対応するフォルダです。外部データポーリングはDr.サーバーの開始/停止に関わらず行うことができ、「外部データポーリング設定」の「自動ロード用データベースファイルの種類」で指定した拡張子を持つファイル全てが自動変換の対象となります。変換したデータは内部データベースとして利用することができます。例えばある外部データベースファイルを変換したい場合（商品.txt とする）正常に変換できる場合は「商品.db」と「商品.bak」というファイル形式になり、変換できない場合は「商品.err」となります。変換できない理由の一つとして、テキスト区切り設定のミスが考えられますので、エラーになった場合はこの点をまず確認して下さい。尚、外部データポーリングを行う前には、まず「初期設定」でフォルダごとに自動ポーリングを行うかどうかを設定する必要があります。

外部データポーリング設定

データベース自動ポーリング	テキストデータ自動ロードモード
自動ロード用データファイルの種類(複数指定の時にマで区切り) *TXT	<input type="radio"/> 上書き <input checked="" type="radio"/> 追加
スケジュール自動ポーリング	テキストデータ自動ロードモード
自動ロード用データファイルの種類(複数指定の時にマで区切り) *CSV	<input type="radio"/> 上書き <input checked="" type="radio"/> 追加
短縮コード自動ポーリング	テキストデータ自動ロードモード
自動ロード用データファイルの種類(複数指定の時にマで区切り) *DAT	<input type="radio"/> 上書き <input checked="" type="radio"/> 追加

設定 取消 ヘルプ



## 外部データポーリング設定

### 自動ロード用データファイルの種類

「Dr.サーバ」が自動変換するテキストファイルの種類を設定します。ワイルド・カード記号「\*、?」を使用することができます。いくつかのファイル種類を同時に設定することもできます。その場合、カンマ「,」で区切ります。例えば、「\*.TXT,\*.CSV,JW?????.\*」のように、3種類のファイルを設定することができます。「テキスト区切りの設定」であらかじめ指定しておく必要があり、そのパラメータは自由に設定することができます。

## テキスト区切り設定

外部データポーリングにおいて、テキストファイルを内部データベース形式に変換するために、事前にこの設定をする必要があります。尚、ここで行う設定はデータベース管理で行う「テキスト区切りの設定」と連動しています。

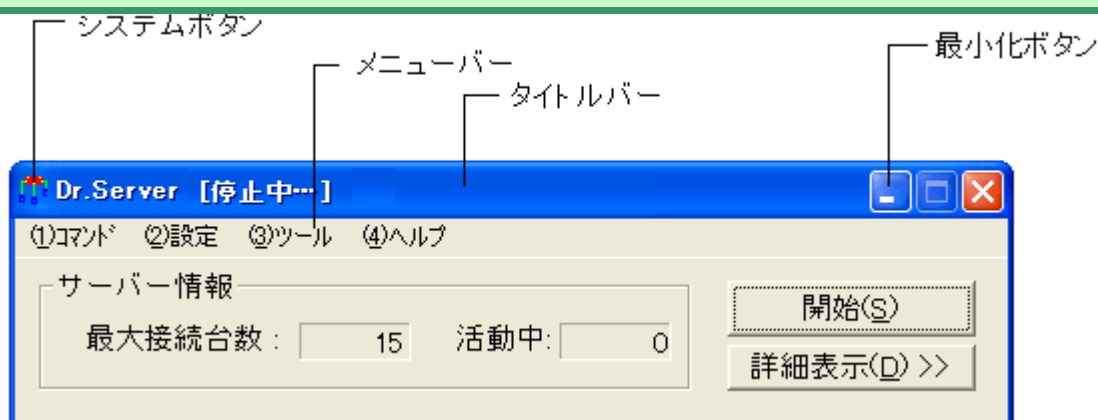
## まとめ：各機能と設定の関係

以上のように、Dr.サーバの機能はデータ通信と外部データポーリングの2つです。この2つの機能を開始する際に、どの設定項目が必要かを下記にまとめます。

- 各プリンタとのデータ通信開始
  - ・初期設定
- 外部データポーリング開始
  - ・初期設定の「ルートフォルダの設定」
  - ・初期設定の「プリンターの設定」・「共通フォルダの設定」内の外部データポーリング有効指定
  - ・外部データポーリング設定
  - ・テキスト区切り設定

各作業を行う際には上記設定を確認し、もしパラメータの変更があるようであれば、各作業を開始する前に変更を行ってください。

## メニュー・項目に関する説明



**システムボタン** ウィンドウに対する操作（移動・最小化・閉じる）ができます。システムボタンをWクリックするとウィンドウを閉じます。

**タイトルバー** タイトルバーには「Dr.サーバー」と表示されます。タイトルバーをドラックする事によってウィンドウを移動することができます。

**メニューバー** メニュータイトルをクリックすると対応するメニューが開かれます。また <Alt>キーを押しながらメニュータイトルに書いてある数字キーを押してもメニューは開かれます。各ボタンに対応する操作の詳細についてはヘルプメニューの「目次」「メニューに関する説明」をご覧ください。

### (1)コマンド

(A)サーバー開始（＝「開始(S)」ボタン）

各プリンタとの通信の対応を開始します。開始ボタン(S)と同作業です。

(B)サーバー停止（＝「停止(T)」ボタン）

各プリンタからの通信の対応を停止します。停止ボタン(T)と同作業です。

(C)外部データポーリング開始

指定された場所に外部データがあるかどうかの定期的チェックを開始し、その都度自動変換を行います。

(D)外部データポーリング停止

外部データのチェックと変換を停止します。

(E)終了

Dr.サーバーを終了します。

### (2)設定

(A)初期設定

内部データの保存先、各プリンタのIPアドレス等を指定します。この設定がないと各プリンタとのデータ通信を開始できない場合がありますのでご注意ください。P 11の「初期設定」をご覧ください。

(B)外部データポーリング設定

自動チェックと変換をする外部データベースの種類を設定します。P 1 2の「外部データポーリング設定」をご覧ください。

(C)テキスト区切り設定

テキストファイルを内部データベースに変換するための区切りを設定します。

(3)ツール

(A) AP800 フォーマット作成：プログラム「AP800 フォーマット作成」を起動します。

(B) GP フォーマット作成：プログラム「GP フォーマット作成」を起動します。

(C)データベース管理：プログラム「データベース管理」を起動します。

(D)図形編集：Windows 標準ソフトのペイントを起動します。

(E)外部フォント作成：プログラム「外部フォント作成」を起動します。

(F)履歴データ管理：プログラム「履歴データ管理」を起動します。

**サーバー情報**

最大接続台数：プリンタの接続可能数を表示します。

活動中：接続しているプリンタの中で現在通信中のプリンタの数を表示します。

**開始(S) / 停止(T)ボタン**

各プリンタからの通信の対応を開始 / 停止します。メニューにある「(1)コマンド」の(A)サーバー開始 / (B)停止と同作業です。

開始(S)：

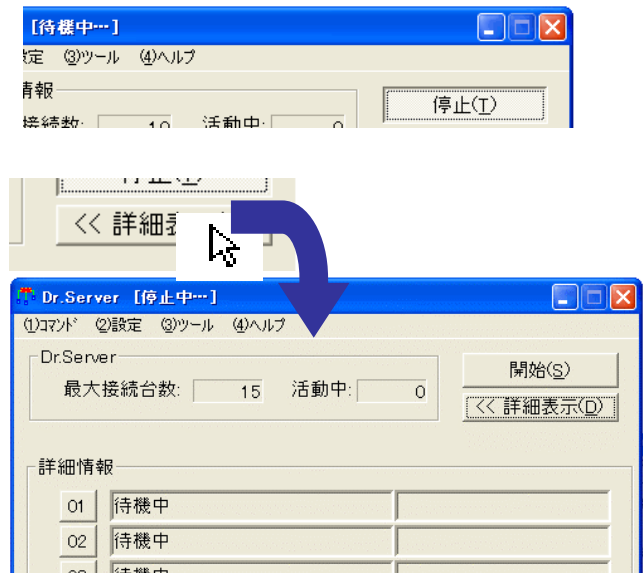
各プリンタの通信始動前にクリックします。

停止(T)ボタンに変わり、タイトルバーに Dr.サーバー[待機中]と表示されます。

停止(T)：

全プリンタの通信終了後にクリックします。

開始(S)ボタンに変わりタイトルバーに Dr.サーバー[停止中]と表示されます。(右図参照)



**詳細表示(D)>> / <<詳細表示(D)**

「詳細表示(D)>>」をクリックすると、接続している各プリンタの詳細情報画面が現れ、各プリンタの状態を詳細表示します。例えば「待機中」、「ダウンロード中」、「(ダウンロード)成功」といった内容がそれぞれ表示されます。「<<詳細表示(D)」を押すと元の画面に戻ります。